

南信州
高森町

市田柿のふるさと



高森町
交通マップ

「まめでくりくり かきとる」



南信州(長野県南部)地域では、①市田柿、②豆、③栗の3点セットを、元旦の朝一番に朝茶と一緒に食べる風習があります。

①市田柿…「かき」。「嘉来(かき)」。福を「かき」集める、「かき」取るという意味で縁起のよいもの。②落花生(豆)…「まめ」。信州の方言で「元気」という意味。③栗…「くり」。「かち栗」(「かち栗」とは臼等で皮をむいた栗のこと)から転じて「勝ち」栗。

元旦にこの3点セットを食べる意味は、上記の通り全てが縁起物であるということ、そして「歯がため」の行事、ということなのです。そのためこの地方では「まめでくりくり、かきとる」という言葉があるくらいなのです。

「歯固め」とは「長寿を願い、正月三が日に餅鏡(もちいかかみ)・大根・瓜・押し鮎・猪肉などを食べた行事。」とのこと(三省堂大辞林より)。歯とは「齢(よわい)※年齢」を表し、歯ごたえのある食べ物を食べることで、齢を固め、長寿を願うという年中行事のことなのです。間くところによると同じ長野県でも、北部や東部では、お正月に市田柿を食べる風習がないとのこと。このように調べていくと、この地域には後世に残っていかななくてはならない風習が、まだまだ沢山あるなあ、と感じます。皆様も、ぜひお正月には高森町の「市田柿」を!

長野県 高森町役場

〒399-3193 長野県下伊那郡高森町下市田2183-1
TEL 0265-35-3111 (代表)
FAX 0265-35-8294
<http://www.town.takamori.nagano.jp/>

高森町歴史民俗資料館「時の駅」

〒399-3103 長野県下伊那郡高森町下市田2243
TEL・FAX 0265-35-7083
<http://www.town.takamori.nagano.jp/tokinoeki/>

<http://takamori-ichidagaki.com/>

柿や柿丸くんの最新情報をお知らせします。
丸くんの活躍など、書籍では知らることができない、市田で見れるようにしました。また、高森町のキャラクター「市田柿のふるさと」を全てインターネット

「市田柿のふるさと」ウェブ版



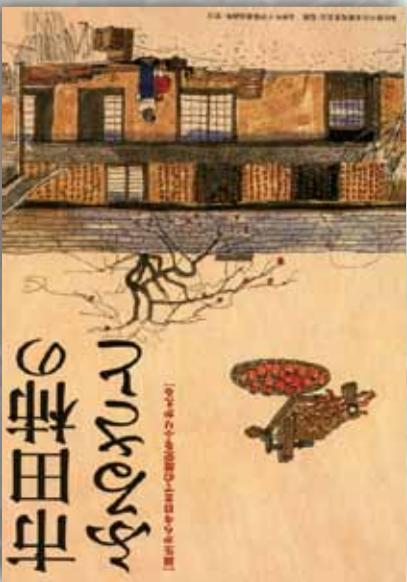
高森町のキャラクター「柿丸くん」です。市田柿をモチーフにした丸い頭に太い眉、町にあふれる豊かな自然を表す緑と清流の模様が描かれた着物を身にまとった、元気あふれる、ちよといたすら好きな男の子です。興奮すると、頭のてっぺんにあるヘアが動きます!
平成24年4月21日に誕生し、同年6月23日には特別住民票が柿丸くんに交付されました。また平成24年11月17日には、「高森まるごと収穫祭」にて、町の広報部長官として任命されました。
特技は柿の枝の剪定と皮むき・お手玉で、趣味は魚釣りです。飛脚から、高森町と市田柿のPRのために、飛び回りますよ〜!

(石碑説明看板より)

という説が有力と考えられる。
とを考えると、帰路の際にその柿を持ち帰って植えた瀧園(岐阜県南部)は既に柿の産地として有名だった。植えられたという説である。伊勢詣の通過点である美大寺に二説に分かれ、一は伊勢詣の霊域に自生した、なぜ、この地に焼柿の神木があったのかについては、から、この度、この地に石碑を建立するものである。「神木焼柿の古木」こそ市田柿の原木と考えられること誠に美味だったことが記載されている。ここに出てくる、と、この境内の東南に一本の神木焼柿の古木があり、あった武田彦左衛門が記した「市田柿」についてによる昭和十八年に市田小学校教師であり郷土史家でもなった。
めの住宅が建てられ、後に伊勢屋敷と呼ばれるように伊勢社と呼ばれる境内には御師(教師)を住まわせるたて祠を祀った。(現在、祠は釈山神社へ移されている。)下市田の伊勢講の人々は、伊勢神宮より分霊を勧請しちで伊勢神宮への崇拝が広がり、特に信仰の篤かった江戸時代後期の文化の頃(1800年代初期)、あちこ

高森町が発祥の地である「市田柿」。その「市田柿」がどのように生まれ、そしてどのように発展してきたかを記したもの、この書籍「市田柿のふるさと」です。高森町役場で500円(送料等別)で販売しています。ぜひ、市田柿の歴史に触れてみて下さい。

書籍「市田柿のふるさと」



柿丸くん
かきまる



石碑「市田柿原木の地」